

「総代幹部研修会」



5月30日、総代幹部研修会が熱田神宮会館において県神社庁・県総代会の共催で開催された。当日は県内より115名の参加があった。熱田神宮を正式参拝に続き、開講式、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、牧野武彦副庁長より開会の挨拶後、引き続き県総代会桑富夫常務理事より挨拶があった。

午前の研修として県内において先駆的総代研修の取組を实践する碧海支部の取組事例が紹介された。まず碧海支部野村文男支部長が支部における研修会の史的变化を述べるとともに、遷宮関連の募財等の依頼が懇願しやすくなった、研修会場となることで境内整備が進み、祭典奉仕が充実するようになってきたなどの総代研修会の意義や成果について述べられた。ついで研修担当者である川喜田隆司碧海支部理事から支部作成の研修会資料映像を鑑賞した。映像DVDは祭典の準備や心構えについて、支部内神職が出演したものを参加者で鑑賞した。川喜田理事は祭典準備や作法などを映像化することで総代各位の理解が深まったとの報告を行った。

昼食後は「天皇皇后両陛下のお人柄と皇室のいい話」と題して、皇室ジャーナリスト高清水有子氏からの講演があった。高清水氏は、現在、マスコミ等で流布されている皇室関連の情報について、大半が真実を述べるものではなく、自身の経験を踏まえて、皇室のあるべき姿、あるいは皇室の真実を伝えることが自身の使命だと語った。氏は天皇皇后両陛下の被災地訪問や先の英国訪問でのエピソードを交えて、参加者に対して天皇皇后両陛下、あるいは皇室のお姿について語られた。また地震、大津波の歴史と共に歩んできた日本の歴史をふまえた天皇皇后両陛下は常に国民とともにいることをそのお言葉に込めるだけでなく、天皇皇后両陛下が日本人としての立ち居振る舞いを体現することによって、祖先から受け継がれている日本人としての誇り、あるいはDNAというものを我々に喚起するのではないかと述べられた。

最後に受講者を代表して修了証が総代会名古屋緑区支部佐藤元保氏に手渡され、桑常務理事より挨拶、三浦正典教化委員長より講評があり、実り深い研修を終えた。